

鶴岡市総合計画審議会 会議概要

- 日 時 令和8年2月24日(火) 10時00分から12時05分まで
- 場 所 グランドエル・サン ローブルーム
- 出席者 下記のとおり(委員16名中14名出席)
 - 出席委員 五十嵐一彦委員、荒川和晴委員、平智委員、武田真理子委員、渡部徹委員、阿部恵子委員、上野雅史委員、大久保紀子委員、工藤久子委員、齋藤祥子委員、酒井忠順委員、成澤剛委員、大橋由明委員、庄司愛恵委員、
 - 欠席委員 福原晶子委員、丸山絢子委員
- 傍聴者 4名
- 協議題等 総合計画後期基本計画の推進について他

○ 概 要

- (1) 総合計画後期基本計画の推進について

○委員

- ・普及啓発にあたり、若者の意見を吸い上げるという主な目的でワークショップを行っているが、学校側では総合学習の一環として位置付けているため、授業時間という制約がある。また、中央高校では事前に講話を行うことで、まちづくりの施策がどういうふうに取り組まれてきているかという仕組みを生徒達に理解してもらうことが可能であったと思う。
- ・今回のワークショップは常識的な意見でまとまっており、もう少し若者らしい、ユニークな意見を引き出せるような仕組みづくりも必要だと感じた。自分達が考えたことを実行に移すとすれば、どのような方向性・方策があるのかということを導くようなステップに進めることができると、より良いワークショップになる。

○委員

- ・保育料の無償化とあるが、生まれた子に対する保証は手厚くなっている一方で、0歳児から保育園に預けたいというニーズには対応できているのか。3歳児からよりも0歳児から預けたいという声が多い中で、人手不足で保育士が確保できないなど受入態勢が万全でない、安心して子ども預けられないのではないのか。また、鶴岡の文化的な魅力や観光地であるといった特色を生かした教育も導入していただきたい。

→(事務局)

- ・今回の保育料の無償化により、0～2歳児の入所児童数が増加することが予想される。保育士等の人材バンク事業なども行っている他、処遇改善等による保育士の確保、計画的な施設整備による多様な保育ニーズへの対応など、保育施設とも連携しながら、適切に受け入れ態勢を整備していきたい。

○委員

- ・観光のPRについて。鶴岡は来ていただくとその良さをわかっていただけるが、来ていただくまでのハードルが高いと感じている。来ていただくことが一番のPRになるのだが、これまでのPR策の中で、非常に手応えを感じたもの、あまりうまくいかなかったもの、そういった整理はなされているのか。

→(事務局)

- ・令和6年度から中期観光戦略プランにより取り組んでいるが、観光者数、観光消費額を上げるといった目標に掲げている。DEGAMで観光ホームページを作っており、そのアクセス数も今回のKPIに入っているが、まだまだ、直接的に観光PRに繋がっていないところがあると感じている。

- ・山形県や本市が昨年海外メディアに取り上げられたり、資料1の今後の取組方針案にある令和8年度の3つのキャンペーンなど、このような好機を生かして、鶴岡へ一度来ていただいて、来た方にまた情報発信するなど、そのような取組みを行っていききたい。

→委員

- ・やはりホームページを見ていただくまでがハードルがあり、鶴岡の名前が、関西や九州方面ではまだまだ知られていない。なるべく多くのイベントを行って鶴岡へ来ていただくことで、鶴岡を知っていただくことが最初だというふうに常々思ってる。

○委員

- ・若者の地元回帰について多くの取組みが行われてるが、今の子ども達が、鶴岡に育ってよかったと感じているのか、疑問に思うところがある。
小さい頃からタブレットやスマホが身近にあり、小学校はスクールバス通学で道草を食べない、高校生も送り迎えが多い、雪遊びや海水浴も経験ない。どこで暮らしていても育てられても同じような環境が今の子ども達を取り巻く環境なのではないか。
- ・懐かしく鶴岡に帰りたいと思える地域に根づいた体験が大事で、庄内農業高校の庄農うどんが良い例。自分たちで作って販売して、その体験が感動・感謝に繋がっている。今後の施策には、そういった視点を盛り込んでいただきたい。

○委員

- ・中心市街地活性化の観点から。銀座通りでは最近若い人たちが色々な店を出しており様々な動きがある。その背景には、店舗兼住宅のため、店を閉めたものの生活空間として残っていたところが、亡くなったり高齢になり施設に入るなどして空き家になってきたことが考えられる。そこが売りに出て、若い人たちが買って、色々な形で開発をしているという状況にある。
- ・これ自体は喜ばしいことであるが、市として将来的にこのエリアをどうしていくのかというような、グランドデザインが必要。提案として、官民で協議するエリアマネジメント協議会のような組織を作り、商店街も含めて全体で議論するような場があるとよい。

→（事務局）

- ・今年度から5年間という形で、第3期鶴岡市中心市街地活性化基本計画を進めている。中心市街地ににぎわいを作っていく観点では、やはり行政側だけでなく民間の力が欠かせない部分であると認識している。
- ・グランドデザインを官民連携のもとで行っていくことは必要だと感じている。今年度実施した銀座通りでの社会実験や、通りとしてどのような点から一緒に連携できるか、必要に応じて組織を立ち上げながら連携して対応して参りたい。

○委員

- ・移住について。鶴岡市は、2025年度住みたい田舎ベストランキングの5位に入っている。選ばれた理由を大事にして、それをわかりやすく発信をしていくことが重要。
- ・今年は熊の出没が問題になったが、もっと力を入れて市民にアピールをしていくことが重要。特に町内会で把握している情報もあり、連携することも大事。
- ・庄内看護専門学校について、合格者のうち男性が非常に少ない状況とのこと。看護師はこれまで女性の主な仕事だったが、男性がそこに入っていくということは大きな価値があると思っている。男子学生にも、そういう道があることをもっとアピールするとよい。
- ・多文化共生に関し、外国人の方で同じ言語を使う方同士などで教え合うということも有用であり、そういった趣旨で交流会のようなものを開催するとよい。マイナーな言語で孤立している方々へのサポートも必要。
- ・鶴岡で暮らして思うのは、特に鮮度がいいものも多くお刺身など鮮度勝負で食べるものがおいしいということがあり、水産物の加工に関してあまり手が入ってないと思う。例えば金沢では魚を昆布メにして付加価値を上げている。高付加価値化に力を入れ、漁獲量は減っても収益は増えるという構造が重要と考える。
- ・観光関連で、先ほど鶴岡の知名度が低いといった話があったが、頑張ってる方だとは思

う。しかし、人口 10 万人程の都市を見ると、例えば焼津、尾道、岩国、富士宮、丸亀などは、名前を聞くとパツと思ひ浮かぶものがある。鶴岡も、全体的に PR するというのもいいが、やはり個性を持って光るところ 1 点集中で、とにかく全国の方に名前を覚えていただくというようなことも必要かと思う。

- ・鶴岡の駅弁がなくなって久しい。また、今までおいしい料理を提供していた店舗が、後継者不在など様々な事情で廃業するということが起きている。その店舗のレシピをアーカイブ化して、引継ぎたい方がそのレシピを見て再現することができる、といった新しい価値を作れるような仕組みづくりができないか。
- ・ふるさと納税について。鶴岡ガストロノミックイノベーション計画で、いろいろな農産物を加工したり新しい技術で食品製造を行っており、これに特化し用途を明確にしたふるさと納税の創設を検討いただきたい。
- ・鶴岡は「食」が非常に重要。テレビ番組の 30～40%がグルメ番組。日本人はグルメ好きであり世界の人もそうではないかと思うが、そういった切り口で新しい鶴岡市の価値を出していくことが大事。

→ (事務局)

- ・シティプロモーションに力を入れているが、まだ工夫が足りないと思っている。
- ・関連するが、ふるさと納税についても、返礼品の 7 割が米、他も天候に左右される 1 次産品が多い状況。旅行商品なども頑張っているが、高単価の返礼品等も含め、新規開発に一層取り組んでいく。

○委員

- ・防災無線のスマートフォンアプリ配信は、非常に良い取組。使い方については、特に高齢者向けに、各庁舎などでサポートをしていただく体制をお願いしたい。
- ・藤島地域の義務教育学校について、非常に期待されており、新たな学校ができるということで引っ越してきたいという方がいる。同エリアでは、地域活動センターなど老朽化が進んでいる施設もあり、地域全体を見たコミュニティのあり方、住民に期待される地域づくりを検討いただきたい。
- ・水道事業の広域化は重要で、長期ビジョンに立った施設整備計画をお願いする。また、水道事業だけではなく、消防事業や環境廃棄物事業、火葬場などは庄内地域一円で考えてもいいのではないか。
- ・駅前の旧ジャスコ跡地活用について、JR 利用者を含めた駐車場利用ができないか。有料でもいいが、例えば特急利用者への無料券のような施策があると、JR 利用促進にも繋がるのではないか。
- ・鶴岡の魅力発信に関し、地元紙だけでなく、全国紙に取り上げられるような取組、PR の仕方を検討いただきたい。

○委員

- ・観光客がコロナ禍前の 7 割 8 割程度で、元に戻ってきてはいない。これを打破するには、やはり鶴岡市そのものの認知度をさらに高めていく必要がある。
- ・観光施設のネーミングについても、「鶴岡」という名称がつくことが重要であり、連呼することで印象に残る。その他、文化財や歴史的なものを大切にするという取組も、引き続き、進めていきたい。

○委員

- ・9 月に、東北中の青年会議所が集まる「東北青年フォーラム in 鶴岡」が開催される。同月には JR のイベントもあり、多くの交流人口が見込まれる。
- ・6 月には、新潟でアスパック (ASPAC) というアジア圏の青年会議所が集まる運動がある。海外の方もたくさん来られることから、新潟とは距離も近く、交流人口の拡大に、鶴岡青年会議所でバックアップできることも検討したい。

○委員

- ・3G回線が3月に終了し、高齢者でもスマホに変えざるをえない。この機を逃さずに、防災無線の講習会などを契機として、市のホームページ・LINE登録をぜひ進めてもらいたい。
- ・一方で、やはりスマホを持たない人を取り残さないという対応も必要。
- ・学校給食に対する満足度がC評価なのは残念。地元の食材を使って、給食が美味しかったという思い出は大事。新給食センターの進捗状況も合わせながら、子ども達の豊かな思い出づくり、おいしい水とおいしいお米とおいしい食材で鶴岡に残ってもらえるような、施策を考えて欲しい。

→（事務局）

- ・給食関連のKPIについては、児童生徒へのアンケートを元に行っている。「給食がおいしい」と答えた割合というKPIであるが、設問が「おいしい」「まあまあおいしい」「あまり美味しくない」「美味しくない」の4択となっており、「まあまあおいしい」を含めると97%となる。「給食を残さず食べる」というKPIについても、設問の関係でこのような数値になっている。
- ・新学校給食センターの整備については、学校給食・食農教育推進本部会議でのご意見等を踏まえ、基本計画の策定を進めていく。子ども達にとって美味しく安全で、しかも鶴岡の豊富な食材を使い、鶴岡らしい給食の提供にこだわっていききたい。

○委員

- ・荘内看護専門学校の学生確保については、高校生だけではなく、親をターゲットにするのも1つの方法。ホームページを見てくださという募集では不足であり、直接顔を合わせる機会、特に現場で働いている人達の生の声を伝える機会が重要。
- ・医師確保についても、医師の勤務環境の改善だけでなく、子育て・教育環境、交通手段の充実など地域の魅力を高めることが、荘内病院に来ていただく、残っていただくことに繋がる。

○委員

- ・多文化共生推進事業に関し、山形大学農学部の留学生は毎年約100名、市全体の1割程の状況。ボランティアに頼らない日本語教室の充実や、住まい探しへの大家さんの理解、出羽庄内国際村の有効活用やサテライト機能など、外国人居住者に対する利便性を図るといふ観点からは、もっと積極的な対応が必要と考える。
- ・水産業の担い手確保について、新規就業者が目標値に達しているが、就業者と廃業者の入れ替わりなどの、全体の数を踏まえた分析を行う必要がある。
- ・KPIのC評価は、残りの計画期間で改善するのは難しい印象を受ける。達成が難しいKPIの設定が要因であることも考えられ、次期計画に向けて適正な目標値の設定も検討が必要。

→（事務局）

- ・漁業従事者数は、令和5年の数字で約210人、10年前は約260人であり、50人減っている。毎年5人新規就業の目標を達成してはいるが、全体の減少幅を抑制する目標という位置付け。このように漁業者が減少する中で、どのように漁業の活性化、業として確保していくかが重要と捉えている。

○委員

- ・防災無線の関係では、これまでの有線放送設備で行ってきた各自治会でも非常に期待している。ぜひ、進めていただきたい。
- ・義務教育学校については、先進事例としてお手本になるような事業になる。2～3年前に高知県にある義務教育学校を視察したが、そのときに感じたのは、校長先生の熱量。リーダーの存在は非常に大事、その辺も留意して進めていただきたい。
- ・水産業自体の環境が非常に変わってきている。どう改善していけるのか、改めて県と連携して進めていただきたい。

- ・道の駅の整備については若干遅れが生じているとのことだが、しっかりと対応してやっていただきたい。地元の声も聞きながら、丁寧な説明を行い、道の駅を作る目的に沿って進めていただきたい。

○委員

- ・KPI に関しては、単年度の ABC 評価の数も重要だが、評価が下がったものと上がったものの要因分析をしっかりと行う必要がある。次の計画に生かす観点からも重要である。

(2) 総合計画審議会専門委員会の新設について

○委員

- ・委員については、どのような方を想定しているのか。

→ (事務局)

- ・人選については、企業経営、組織ガバナンス等に精通された民間事業者の方などから選考したい。行政内部で気づきにくい視点からご助言いただくという観点で、一般公募も含め選出する。

○委員

- ・他の専門委員会と比べたときに名称に違和感がある。例えば、現状は「産業活性化専門委員会」ではなく「産業専門委員会」としている。「行財政健全化専門委員会」という名称については、再度検討いただきたい。

→ (事務局)

- ・ご意見として承り、検討する。